

大学名	兵庫県立大学		
University	University of Hyogo		
外国人研究者	鳥雲高娃		
Foreign Researcher	WUYUNGAOWA		
受入研究者	新澤 秀則	職名	教授
Research Advisor	Hidenori Niizawa	Position	professor
受入学部/研究科	経済学部		
Faculty/Department	School of Economics		

### <外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	中国
Nationality	Chaineese
所属機関	赤峰学院経済・管理学院
Affiliation	ChiFeng University
現在の職名	講師
Position	Lecturer
研究期間	2014. 10. 06 - 2015. 01. 03
Period of Stay	October 6,2014 - January 3, 2015
専攻分野	経済学
Major Field	Economics



研究室風景

### <外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

#### ①研究課題 / Theme of Research

「中国内モンゴル自治区における持続可能な農牧業の担い手としての協同組合・非営利組織の組織・経営・ガバナンスに関する研究」  
内モンゴル自治区の牧畜経済と草原管理に関して研究を行った博士論文を発展させ、内モンゴルの農牧業分野における協同組合方式による事業組織化と農業と牧畜、エネルギー生産などの多角化経営について研究する。このため、日本の集落営農、農業生産法人によるコミュニティ・ビジネスやこれらを支援する非営利組織の研究調査を行い、現在中国政府の指導の下で急速に普及しつつある農業专业合作社など中国型農業協同組合組織との比較をおこない、少数民族地域の自然・社会・文化に根ざした持続可能な農牧業経営組織のあり方を検討する。

#### ②研究概要 / Outline of Research

日本の農村コミュニティにおける集落営農、農業法人、コミュニティ開発会社法人などで、資源・環境保全型で地域コミュニティの発展に資する新しいタイプの非営利・協同組合組織(社会的企業)の典型例を抽出し、そのミッションや組織・運営面の特色と地域の経済・社会・環境への貢献と社会イノベーションの側面を明らかにするとともに、中国との比較を行い、日本の事例の中国農村、とくに少数民族地域への適用可能性を考察する。調査方法として、文献調査、統計データの収集と分析、現地調査による関係者へのインタビュー(structured interviews)および農場・牧場の視察をおこなう。

#### ③研究成果 / Results of Research

今回の交流の機会を利用して、以下のような研究成果が達成できた。

1) 農村地域の諸組織の現地調査と研究者との交流を通じて、データ収集と事例研究が達成できた。2) 国際公共経済学会第29回研究大会(12月14日)において「内モンゴル自治区の協同組合的組織—专业合作社についての事例研究」を報告し、学会誌に掲載予定、3) 大阪市立大学創造都市研究科の「アジアの社会的企業研究会」において「内モンゴル自治区の牧区における牧畜経営の現状と課題」を報告、4) 兵庫県立大学環境経済研究センターの研究会(12月22日)において「内モンゴル自治区における持続可能な農牧業協同組合に関する研究」を報告。

#### ④今後の計画 / Further Research Plan

今回の研究をふまえて、研究課題を日中だけでなく、モンゴル共和国、さらに東アジア及びEU諸国も含めた多くの国との比較研究へと発展させたい。地域コミュニティの協同組合組織の実態に焦点を当て、自然(環境)・社会・文化に根ざした持続可能な農牧業経営組織(社会的企業)のあり方をより視野を広げ、理論的な基礎を含めて検討したい。現在中国で政府主導の下で普及しつつある農業专业合作社など中国型農業協同組合組織の組織化についても、引き続き受け入れ教員の鳥雲高娃教授のアドバイスを、旧指導教員の牧野松代教授との共同研究を続けたい。また、赤峰学院と日本の研究機関間の交流を含めた、さらなる緊密な日中学位交流を深めたい。

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究課題 / Theme of Research

課題名「中国内モンゴル自治区における持続可能な農牧業の担い手としての協同組合・非営利組織の組織・経営・ガバナンスに関する研究」  
内モンゴル自治区では、牧民の協業による伝統的な放牧方式が草原の持続可能な利用を通じて牧畜と草原維持の両立を可能とし、牧民の生計とコミュニティの基盤となってきた。市場経済移行期における、牧民家庭への家畜と草地の分配という二重の「家庭生産請負制」と禁牧・退牧還草・生態難民など、牧民経済と生態環境保全とを一面的、対立的にとらえる環境政策により、「協業によるコミュニティの維持と持続可能な生計」が根底的に揺るがされている。本研究は2007年の年の法制化により拡大しつつある農牧民専門合作社を、「上からの普遍化」ではなく、少数民族地域の人々みずからのデザインによって、新しい形の牧民協同組合として再構築する手だてとするための理論的・実証的な研究を意図している。

②研究概要 / Outline of Research

研究課題を達成するために、日本の農業や農村コミュニティにおける新たな協同化の試みに焦点を当て、中国との比較研究の基礎となる調査研究を行なった。研究方針として、従来型の農協ではなく、日本の集落営農や有機農業の経験から生まれた新しい試み—農地や労働力の再編成を通じた協同化、生産者主導の多角化と付加価値の吸収、共同行動による資源・環境保全、食の安全と健康、産消連携と都市・農村交流による市場開拓と地域循環システムの形成など—に焦点を当て、非営利・協同組織や社会的企業による社会イノベーションと組織ガバナンスについて研究を行なうこととし、具体的研究項目と現地調査対象の選択を行なった。受け入れ研究者および兵庫県立大学経済学研究科教員による日常的な研究指導と意見交換を重ねた他、文献・データ収集の支援、現地調査への同行、指導教員の研究ネットワークを通じた関連分野の研究者との交流を進めた。

③研究成果 / Results of Research

- 北海道、熊本県、長野県、関西地域の農家(牧場)と協同組織の現地調査を行ない、多くの事例とデータを収集し、今後の研究に有益な実務家との交流を深めた。
- 大阪市立大学創造都市研究科(アジア社会的企業研究会)での報告と院生への講義(11月)、国際公共経済学会での口頭発表(12月:学会誌(『国際公共経済研究』)に掲載予定)、および兵庫県立大学環境経済研究センター研究会での研究報告(12月)を行なった。また、社会的企業モデル国際比較研究プロジェクト(ICSEM)のメンバーとして共同論文(英語)を執筆中である。
- 学会、研究会を通じて多くの研究者と交流を深め、日本の研究者との研究交流と共同研究の基礎をつくった。また、日本滞在中に内モンゴルより赤峰学院・経済学院長が来日、兵庫県立大学と同大学との今後の教育・研究交流についての意見交換を行なった。

④今後の計画 / Further Research Plan

従前通り、指導教員を通じて電子メールやスカイプなどで連絡をとり合うとともに、研究指導を続けて行く予定である。この間、研究者は中国社会科学院の内モンゴル研究プロジェクトにも関わり、来年度は個人と申請した研究費が採択されたこともあり、現在の研究課題はしばらく継続する予定であるため、引き続き、この課題に関して日本やアジア・ヨーロッパの最新の研究動向に関する情報を提供するとともに、国際共同研究や国内外の学会での共同報告などの機会を多く作って行きたい。また、今回の支援事業をきっかけとして縁ができた赤峰学院(経済学院)などの内モンゴル研究者との部局間、研究者間の交流が進めば望ましく、具体的な提案があれば検討をすすめたい。



熊本県畜産農業協同組合中央支所にて



国際公共経済学会での研究報告